

(シラバス No.10)(専門科目(共通領域))

科目名	コーチング特論	単位数	2単位	科目コード	A3
	Advanced Seminar on Coaching	形態	選択		
		担当教員	山田雅之		
【授業概要】					
<p>コーチング特論では、それぞれ受講生の実践と諸領域における理論的背景との往還を通じて、コーチングに関する知見を深めつつ、より良い実践を目指す。従来の経験則のみに頼るコーチングから脱却し、理論やエビデンスに基づいたコーチング実践をデザイン・実践・評価し、その後より良い実践のデザインへとつなげられることを目指す。授業では特に熟達過程に焦点を当て、学習者が熟達していく過程を形成的に評価し、実践へとつなげられるようになることを目指す。</p> <p>※本授業は広く教育に関わるコーチングを対象とします。スポーツコーチングに限定はしません。</p>					
【授業の到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・コーチングに関わる諸領域の理論的背景について知見を深める。 ・現場において熟達過程に関わるデータを採取・分析・評価を通じて、より良いデザインを構築する。 					
【授業計画】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2. フィールドの紹介 3. コーチングに関わる諸領域の研究 4. 理論的背景と実践 5. 実践研究の紹介 6. 熟達化研究 7. フィールドにおけるデータの採取 8. データ分析 9. 形成的評価の実践 10. フィールドにおける研究実践計画 11. 研究計画の修正 12. 研究実践報告 13. 実践のデータ分析と評価 14. フィールドにおける研究実践の発表 15. 総括 授業の振り返りとまとめ 					
【評価方法】					
<ul style="list-style-type: none"> ・コーチングに関わる研究領域の位置づけと論点を理解し、構造化できる。(レポート) 30% ・実践におけるデータの分析・評価方法を理解する。 <p>(授業内課題 20%および科目修得試験レポート 50%)</p>					
【教科書】					
テキストは授業内で適宜配布等指示します。					
【参考図書】					
<p>武田健『コーチング—人を育てる心理学』(誠信書房, 1985)</p> <p>K. Anders Ericsson 他編『Expertise and Expert Performance』(Cambridge University Press,2006)</p> <p>Richard A. Schmidt『Motor Learning and Performance』(Human Kinetics,1991)</p>					